

I 誰に対しても、何の借りもあってはいけない。

「誰に対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです」：8。

1. 「誰に対しても、何の借りもあってはいけません」。経済的な「借り」、負債、借金は、神が与えておられる人間の平等の関係（支配しない、支配されない健全な関係）が崩れます。お金や物、権利の貸し借りが始まった瞬間に精神的に対等な関係、自由に愛と真実、尊敬をもって「はいといいえ」を言えない関係になります。貸した側は、「約束通り返して欲しい。本当に返してくれるのだろうか。親しい仲でも本当の願いを言うと関係が崩れるかも」という複雑な思いになり、借りた側は、「約束したが返せそうもない。しかし、実情を話しても相手にも都合や家族の必要もあるだろう。どうしよう」という複雑な思いや状況になる。借りた人が、居場所を知らせずに、いなくなり、連絡がつかなくなることも多くある。金銭自体は悪ではないが、金銭は悪への誘惑となり易い。政治家だけの問題ではない。「金銭を愛する（執着する。金銭欲に支配される）ことが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分を刺し貫きました」（I テモテ6：10）。※箴言には、保証人となることにも気を付けるようにとのみことばがあります→「保証人となる者は苦しみを受け、保証をきらう者は安全だ」（11：15）。「思慮に欠けている者はすぐに誓約をして、隣人の前で保証人となる」（17：18）。「あなたは人と誓約をしてはならない。他人の負債の保証人となってはならない」（22：26）。※教会債や教会が会堂建設の時に信頼できる銀行や JECA の会堂基金から借りることが禁じられているのではない。但し、怪しい金融機関から借りる事は絶対に避けましょう。

2. 「ただし、互いに愛し合うことは別です」。個人と個人で、互いに借金し合うことと主からの識別力のある愛で愛し合い、貸すのではなく、必要に応じ、祈りつつ識別して、互いに援助し合うことは別です。「苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました」（II コリント8：2）。人を支配しない真実な愛は、支払い切れない愛の負債である。お互いに、真実に愛された人は、真実に愛することを学び、愛することを知っている人は愛される人でもある。

3. 「他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです」。神にまず愛され、他の人を神の愛で真実に愛する人は、すでに律法（まず神から愛をいただいて、神と隣人を愛しなさい）の要求を満たしているのです。「他の人」とは、かたわらにいる人、存在。日常生活の中で、身近な隣人を愛する時、すでに神が要求される律法のすべて（神がまず、あなたを愛されたように隣人を愛しなさい）を実行しているのです。

II 『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない』という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、『あなたの隣人を自分のように愛しなさい』ということばに要約されるからです」：9。

1. 「姦淫してはならない」。神から与えられた性の交わりを結婚関係以外の人と持ってはならない。神が下さる愛は、品位、慎み、判断力のある愛です。その愛で夫と妻は愛し合う。心の中で姦淫の罪が始まる。結婚関係以外の異性に心が引かれようとする時に、深みに入る前に早めに神に祈り、心の思いをきよめていただきましょう。神の律法の心は、ただ悪いことをしないということではなく、まず神に愛されていることに感謝し、神の愛で伴侶を愛し、他の家庭を尊重し、自分の家庭も他の家庭も壊され、深く傷つくことをしないのです。

2. 「殺してはならない」。私たちは、神から与えられた命を感謝し大切にします。神は「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」(レビ記19:18。マタイ22:39)と命じられる。神からの自分への命を愛し大切にするように、隣人を愛し、隣人の命を大切にし、殺していけないのです。私たちも、他の人も、もし誰かが自分に危害を加えようとする時に、全世界共通の言葉で相手に頼みます＝「命だけは助けて下さい!」と。それほど、命はすべての人にとって大切です。赤ちゃんや子どもたちや住民の人々の命を一瞬にして奪う戦争は大きな罪です。日々祈りましょう。「各国の指導者が、停戦をし、ひどい殺害を早く止めるように」。殺人は、心で人を憎み始める時から始まっている。自分が神にいかに赦されているかを思い、感謝し、ある人への憎しみの罪を告白し、赦しの心を与えられるように祈りましょう。正しいさばきは、神がなさる。「わたしは、あなたがたのいのちのためには、あなたがたの血を要求する。…神は人を神のかたちとして造ったからである」(創世記9:5, 6)。

3. 「盗んではならない」。私たちそれぞれの所有しているものは、偶然のものではなく、万物を造られ万物の真の所有者が配分されたもの。暴力による盗みも、詐欺による盗みも禁じられている。神に愛され、神に救われ、神が与えてくださるものを感謝し、満ち足りている人は、自分の領域でない他の人のものを盗まない。ただ禁じられているからではなく、神が造られた一人一人を神の愛で愛している所以他の人が困ること、他の人を傷つけることをしないのです。動機は律法主義ではなく真の愛です。「金銭を愛する(執着する。金銭に執着し所有する金銭が多くなればなるほど、人の心はますます欲望に支配され、困っている人に援助しなくなる。金銭をすべての与え主の神より大切にす偶像礼拝)生活をせず、今持っているもの(神が分け与えられたもの)で満足しなさい。主ご自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない』と言われたからです」(ヘブル13:5)。私たちは、盗む者ではなく、必要に応じて与える人に変えられるように祈りたい。

4. 「隣人のものを欲してはならない」。この十戒の最後のまとめの戒めは、私たちの心の全てが隣人を愛する愛で占領されることを神が願っておられるので、隣人愛に反する一切の欲望は、心の中から追放されるべきという意味です。この要点は、有害で他人の不利になるような欲望を私たちの心に起こさせる思いを忍び込ませてはいけないという意味。これを積極的に言うなら「私たちが心に抱き、思いはかり、志し、反省するいかなることも、隣人の幸いに結び付くべきということです。

5. 「どんな戒めであっても、それらは、『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』ということばに要約されるからです」。主イエスは、十戒の1から4の戒めを「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽して、あなたの神、主を愛しなさい」と要約され、「これが重要な第一の戒めです」と言われました(マタイ22:36-39)。この戒めの前に、まず神が私たちを「心を尽くし、いのちを尽し、知性を尽して」愛された神の先行的な愛を忘れてはいけません。十戒の5から10の戒めを「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」と要約された(22:39)。主を信じ、神に愛され赦された自分を自分でも受け入れる時に、隣人を自分自身のように愛する人に変えられます。神の愛を心から受け入れる人は、十戒の戒めを神に感謝し律法主義ではなく神に頼って喜んで守る者に変えられ続けます。

Ⅲ「愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです」: 10。神の溢れる愛を受け入れ、キリストの愛(私たちの存在を受け入れ大切にされる愛)にとどまっている人は、神が愛されている隣人に悪を行わない。それ故、神からの愛は律法の要求を満たし互いに愛し合う愛を生む!